



1800 時間

筧 捷彦

(早稲田大学／情報処理教育委員会 委員長)
kakehi@waseda.jp

「1800 時間が問題になっている」と聞いて、「ああ、あれね」と思い当たる人は少なくないに違いない。

1800 時間は、年間総実労働時間の政府設定の削減目標値である。所定内総労働時間は、ほとんどの分野ですでにこれを下回っている。ところが残業を含めた総労働時間はなおこれを上回っていて、企業はいかにしてこの数値未滿に持っていかで苦勞している。

1800 時間は、また、JABEE（日本技術者教育認定機構）が大学での技術者教育に要求する総学習保証時間の最小値である。JABEEの認定を受けるには、大学はその教育課程での学習保証時間の総計がこれを上回ることを根拠を示して説明できなければならない。学習保証時間とは、仕組みとして教員の教授・指導の下で学生が学習することになっている時間数をいう。そして、実際に認定を受けようとする大学は、この値以上になっていることを示すのに苦勞している。

奇しくも同じ1800という数値が共通するものの、総労働時間の方は1年間の値であり、学習保証時間の方は4年間の値である。つまり4:1であるだけに、「学習時間がそんなに少ないのか」と驚かれた方がいるかもしれない。その内容を説明しよう。

大学の教育を良くしなければならない、と叫ばれて久しい。JABEEの技術者教育認定は、それに応える動きの1つである。技術者の養成を行う教育課程について、教育の質の保証を行い、もってその継続的な改善・発展を

図ることを目的とした仕組みである。

情報処理学会は、情報教育の向上を目指した活動を早くから展開してきた。情報教育についての標準カリキュラムを開発整備してきたのに加えて、専門教育の質の向上を目指してアクレディテーションを導入することを検討してきた。外部の人に専門教育の現場を見てもらい、不備な点を指摘してもらおう。同じ分野に働く産業界の人々による外部評価を定常化することで、相互に教育についての認識を深め議論を深めていく。それによって専門教育の向上を図ろうというのである。

相前後してJABEE設立の動きが始まった。情報処理学会は、この動きに積極的に加わり、JABEEの仕組みの中でアクレディテーション活動を進めることになった。

JABEEの認定が資格制度と結びつき、早期に技術者資格の国際相互承認が得られることを焦眉の急とする技術分野がある。それらの分野からの強い要求に合わせて、2002年度にJABEE認定が始まった。学習保証時間の要求が妥当であるかどうかは、走りながら考えることになっている。

大学生の学習時間の総和は、多めに見ても4800時間である。1学期は標準15週間だから週40時間として600時間であり、4年間は標準8学期だからである。一方、講義時間総数は、講義のかたちだけの構成なら1400時間程度に収まってしまう。講義の予習・復習に講義時間の2倍程度の時間を必要とする建前だから、講義時間は学習時間の1/3程度になるのである。

こうしてみると、JABEEは、講義のかたちだけでなく実験や演習などのかたちを取り入れて、教員の監督下で行う学習時間を確保せよ、と要求していることになる。“卒論”というかたちでの学習分を加えると、学習保証時間の要求を満たすという大学は多い。問題は、自主性に委ねた学習形態だけに個人差が大きく、すべての学生についてその時間数を保証しにくいことにある。加えて、かなりの学生が卒論期間に“就職活動”に多大の時間を取られてしまっているという問題がある。

1800時間が多いか少ないか。大学での教育の実態はどうなのか。企業の方にも知っていただき見ていただく。そして大いに議論を交わす。アクレディテーション活動を通して、学会がその場となることを期待する。

(平成15年8月30日受付)

